

# 「中国企業会計準則と IFRS との比較分析」

—中国企業における会計基準の経営戦略への活用—

呉 セ ッ テ イ

現在、経済の国際化により、国際企業に対しては会計基準の統一化が求められ、また各国に対しては会計基準の改定に際しては、IFRS へのコンバージェンスが求められる。こうしたなか、WTO 加盟後、中国は、国内の資本市場の拡大など、経済環境が大きく変化してきた。中国はそれらの変化に対応するため、2006 年に新しい企業会計準則を公表した。

しかし、中国企業会計準則は、IFRS に基づき作成されたといっても、いくつかの大きな差異がまだ存在すると指摘される。中国企業会計準則と IFRS の比較についての研究を通じて、逆に中国企業会計準則の特質をより深く分析することが可能となる。中国は現在、世界経済を支えるほどの大きな経済力を有し、GDP は世界第 2 位を占めるに至っている。こうした経済的な重要性から、中国の企業会計の分析は国際的にも意義深いものと考ええる。そして、最近の IFRS の適用は、今後の中国企業経営に大きな影響を与えている。これに対して企業側が今後どのように対応すべきかは将来に向けた大きな課題のひとつである。

本研究の目的は、先行研究を踏まえ、主要と思われる会計基準項目をピックアップしたうえで実例を通して両者を比較分析し、中国企業会計準則と IFRS の差異を検討することによって中国企業会計準則の特徴などを明確化し、同時に中国企業会計準則の強制適用を受ける企業側の対応について検討することにある。

論文の構成は以下のとおりである。

はじめに

## I 中国会計制度の概要

- 1 中国における会計規制
- 2 中国における会計制度体系

## II IFRS と中国企業会計準則の発展と動向

- 1 中国における IFRS への対応現状
- 2 中国企業会計準則の動向
  - (1) これまでの経緯
  - (2) 現状

## III 中国企業会計準則と IFRS の比較分析

- 1 主要な各準則の比較分析
  - (1) ASBE の基本準則とフレームワークとの比較
  - (2) IFRS ではあるが、ASBE ではない基準
  - (3) ASBE と IFRS の会計処理の差異
  - (4) ASBE と IFRS の表示と開示範囲の差異
- 2 実例からみる相違
  - (1) 中国商業銀行
  - (2) 中国石油化工グループ

### 3 中国企業会計準則の特徴

- (1) 中国企業会計準則は基本法に基づいて制定されたものであるため、強制的な拘束力を有している
- (2) 中国企業会計準則においては財務諸表項目の表示が具体的で明確である
- (3) 中国企業会計準則は、未だ整備途上にある
- (4) 中国企業会計準則は IFRS を中国の実情と照らし合わせて制定されたものである

## IV 中国企業会計準則と IFRS における相違の原因

### 1 文化要因

### 2 法制度要因

### 3 経済環境要因

- (1) 社会主義市場経済の諸段階
- (2) 未熟な資本市場
- (3) 国有企業の存在

### 4 中国の職業会計人の水準

## V 中国企業会計準則の経営戦略への活用

### 1 公正価値の影響

- (1) 中国会計における公正価値を導入初期
- (2) 公正価値の拡大の背景と概念
- (3) 公正価値の企業経営への影響

### 2 包括利益の導入

- (1) 中国企業会計準則における包括利益について
- (2) 包括利益が企業経営に与える影響

### 3 連結会計とグループ経営

- (1) 連結会計と連結財務諸表について
- (2) グループ経営の変革

## VI むすび

本研究では、中国商業銀行と中国石油化工グループの財務諸表を実例に分析しながら、中国企業会計準則と IFRS における主な差異を明らかにした。

そして、本研究の意義は、両基準の差異を洗い出すことだけではなく、むしろその比較分析によって中国企業会計準則の特徴を浮き彫りにしており、その際の生ずる原因を明確化したことにある。具体的には、中国では、集団主義が重視され、成文法システムに大きく影響される大陸型会計に属するため、中国企業会計準則は、法規制のように強制的な拘束力をもっており、会計の表示と処理に対して詳細な要求を規定している。このなかにあって、中国企業会計準則の主な目的は、国家の管理・監督に有用な情報を提供するというところにある。また、中国は、資本市場の整備や国有企業の改革がまだ社会主義市場経済の諸段階にあるという現状がある。こうした背景のもとで、現行の中国企業会計準則は、積極的に IFRS へのコンバージェンスを指向しているにもかかわらず、中国特有の国状に対応しなければならないものになっている。

また、さらなる意義は、中国企業会計準則と IFRS の研究を通して、中国の企業経営管理に与える影響とその活用についても検討したことにある。中国企業会計準則は、会計処理、財務諸表の作成などの経理業務に影響を与えることはもちろん、企業経営者と投資者の意思決定に多大な影響を与える。今日の中国企業会計準則では、公正価値の利用拡大、純利益に包括利益の追加、連結財務諸表における連結範囲の拡大など新たな規定が加わり、企業全体の経済的実態を明らかにすることが求められる。結果として、財務諸表の着眼点は、利益と費用の差額である純利益から、資産と負債の差額である純資産にシフトすることになる。これと同時に、それに反映される企業価値がより注目されることになる。そのため、中国の経営者に対しては、純利益のみならず、

企業価値の向上が重視されるようになってきたのである。

中国の経営者は、中国企業会計準則を単なる制度的な規則上の導入として適用するのではなく、むしろ IFRS の有する高い分析ツールとしての利点を積極的に活用しながら、今後の企業の成長を達成していくべきであると考えている。